

4. 工場



まだ現時点ではパーツごとですが、これが組み合わさると……？

最後のシーンで重要な役割を担う階段。



今回、舞台装置の製作は俳優座劇場に依頼。これまでも『クレイジー・フォー・ユー』など劇団四季の舞台美術製作をお願いしてきた、頼もしい会社です。搬入に向け、工場での作業もいよいよ大詰めです。

5. 搬入

搬入の日。トラックで自由劇場に運ばれてきた資材をスタッフが手際よく次々に運び込み、あっという間に荷卸しは完了。装置ごとに分かれて作業を進め、新舞台装置が少しずつその姿を現し始めました。舞台上にはどんどん近未来の世界が広がっていきます。



工場ではまだ裸のままだった階段も……こんな仕上がりに！



工場ではばらばらだったパーツが組み合わさり……



カニロボットもピカピカに。仕込み作業を見守るかのようにはたさずでいました。



ロケットが出現しました！

12月20日

6. 本番

とうとう、東京・自由劇場公演の初日がやってきました。限られた時間の中でスタッフたちが技術力を駆使して作り上げた舞台装置、いよいよ完成形がお目見えです！



●撮影＝阿部章仁



●撮影＝山之上雅信

大盛況のうちに東京公演は幕を閉じ、舞台装置はいったん長野県大町市の美術倉庫へ。担当の田上は、次の全国公演に気持ちを向け、「初めて舞台装置のデザインをするにあたり、たくさんの方に助けていただき、貴重な経験をさせていただきました。これから全国の皆様にもより良い物を見ていただけ

るよう、全国公演の準備をがんばりたいと思います」。スタッフたちの心をこめた準備を経て、4月23日（土）に始まった全国公演。生まれ変わった舞台装置とともに北へ南へとカンパニーの旅は続きます。日常から離れた近未来の世界を堪能しに、ぜひお近くの劇場に足をお運びください！

エルコスの祈り

『エルコスの祈り』 舞台装置製作現場レポート

全国各地を旅してまわっている『エルコスの祈り』（以下『エルコス』）は、感情豊かなロボット・エルコスとユートピア学園の子どもたちとの心の触れ合いを描いたミュージカル。公演をご覧になった方はお気づきでしょうか。実は、ラストシーンに登場するロケットと階段の舞台装置が、2015年東京公演より新デザインになっています。新しい舞台装置が本番の舞台に登場するまでの現場に密着しました。

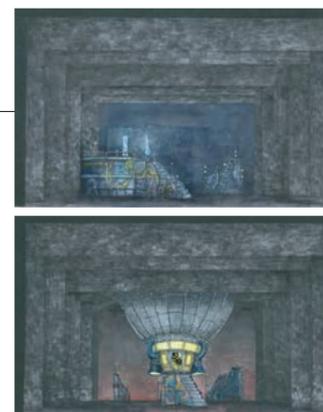
今月の発売日
全国公演
7日

技術の現場より
vol.5
『エルコスの祈り』

2015 11月 1. デザイン案決定

まずは、新装置のデザイン案を決めるところから。舞台装置担当の田上奈菜は、今回初めて装置のデザインをまかされました。入団5年目の経験を駆使し、1984年初演以来愛されてきた『エルコス』の世界観を生かすデザインにチャレンジします。「『エルコス』は50年後の未来という設定なので、現代の子どもたちが見ても未来的だと感じられるデザインにする必要があります。そして、他のシーンとスムーズにデザインイメージをつなげることも大切。実は『エルコス』のデザインは、19世紀、イギリスの産業革命のときの機械類がベースになっています。なので、今回のデザインに組み込めるものがないか、その時代、どんな機械があったかをリサーチし、アイデアを探しています」

田上が描いた舞台装置のデザイン画。未来的でありながら、レトロなぬくもりも持ち合わせています。



2. 打ち合わせ



田上を中心に、活発な話し合いが進行。

決定したデザイン画をもとに舞台装置の設計図を描き、打ち合わせを重ねて実際の出来上がりの仕様を決めていきます。打ち合わせには、舞台監督や照明スタッフ、舞台製作に関係する外部企業の担当者なども参加します。劇団四季専用劇場公演での使い勝手のみならず、のちの全国公演での移動も考慮し、バラし（片付け）やすさ、トラックへの積みやすさなどを含めて検討。使用する資材についてどんな工夫ができるかなど各々意見を出し合い、完成時の色味や質感などイメージ通りの見た目となるよう、模索していきます。

12月 3. 稽古場

稽古場でも演出スーパーバイザー・道口瑞之や舞台監督・岩本佳之らによって新しい舞台装置について演出の打ち合わせが。簡易模型を用いて装置の配置や俳優の動線などをシミュレーション。稽古中は、『ソング＆ダンス』シリーズに登場した舞台装置を代わりに使用し、安全を確認しながら一つ一つ動きを確認。装置を動かすタイミングや速さなども、稽古の中で詰めていきます。



話し合う演出スーパーバイザーの道口瑞之（左）と舞台監督の岩本佳之（右）。



舞台装置の簡易模型。



●撮影＝阿部章仁